



ー外国語活動巡回指導のスタートにあたって（お礼）ー

先週、巡回第1週目を終えました。まずは、巡回校である本室蘭・白鳥台・旭ヶ丘3校の校長先生・教頭先生、外国語活動担当の教務・研修の先生方、5・6年担任の先生方、そしてすべての先生方にお礼申し上げます。

この事業がスムーズなスタートを切ることができるよう多くのお気遣いをいただいていることを、私自身いろいろな場面で感じておりました。あらためてお礼申し上げます。せっかくですので、各校巡回1週目の感想を一言ずつ述べさせていただき、明日からの第2週目に臨みたいと思います。

本室蘭小

巡回初日です。とにかく多くの先生方が声をかけてくださり、学校全体で温かく迎えてくださったことが大変うれしく、また安心しました。何より、外国語活動の授業そのものについて、最も早く相談を寄せてくださり、初日から授業を通して担任の先生方とコンタクトを取れたことが大変よかったと思います。今後の具体的な動きも直接相談できました。明日からの授業づくりを通して先生方と共に学んでいけそうです。

白鳥台小

学校全体でこの研修事業をどう活用していくか、その基本的な考え方が確かであり、初日に今後の具体的な動きも相談することができました。また、この日はKen先生とのTT授業を参観させていただきましたが、ALTと積極的に関わりをもって授業を進めたいという担任の先生方の思いが私には感じられました。ALTとのデモンストレーションは活動を進める上で大切なポイントです。これからの授業づくりが大変楽しみです。

旭ヶ丘小

3校の中では規模も大きく、5・6年生は2学級ずつです。白鳥台小同様、この日は授業を参観させていただきました。すばらしかったのは、4学級ともHi, friends! デジタル版を使って(教室の大型TVで)授業を進めていたところです。子どもたちもそうした授業に慣れた感じで、ICTをうまく活用されている様子が伺えました。また、他校と違うのは、ALTの他に非常勤講師の先生が授業協力を携わっている点です。“学担とALT、学担と非常勤講師、学担とALT・非常勤講師”，それぞれの効果的な指導の在り方についても今後考えていけたらよいと思います。

大学の教員養成は今・・・

小学校5・6年生における英語教科化ならびに3・4年生からの外国語活動実施に向け、大学における教員養成の現状はどのように変わってきているのでしょうか。ここではその一端を、北海道教育大学札幌校を例に見てみます。

英語科の学生は、「英語教育学特論」や「小学英語」といった講義・演習で、小学校英語に特化した内容の授業を受けています。そこには、小学校英語導入の背景や基礎知識はもちろん、教室英語や歌・絵本の活用に至る実践的な内容も含まれています。

また、英語科以外にも、選択科目として前述の授業を受けている学生たちもいます。

実は私は、昨年一昨年と「北海道教育大学小学校英語指導者資格認定講座」において、彼らと一緒に集中講義を受ける機会がありました。ある講義の合間の雑談の中で、「僕は、中学校の英語教師を目指しているのですが、実は最近小学校で英語を教えてみたいなあと思い始めて・・・」という声を聞いたことがあります。

中学校英語教師を目指してがんばってほしい気持ちと、小学校英語に意欲的な先生に現場に入ってきてほしい気持ちと、大変うれしい思いを同時に抱いたのを覚えています。

このように、小学校英語の理念や指導法の基礎を学び、これからの新しい小学校教育を創っていこうという意欲をもった若い教師がこれから私たちの仲間に入ってくるのです。